

殺虫剤

登録番号 第18504号

オリオン水和剤40

(アラニカルブ水和剤)



- 有効成分 アラニカルブ 40.0%
- 性状 類白色水和性粉末 45 μ m以下
- 毒性 劇物
- 有効年限 3年
- 包装 (100g \times 10袋) \times 4箱/ケース 500g \times 20袋/ケース
(地域限定:10kg(WSB))
- 化管法 アラニカルブ(1種) 40.0%

【特長】

1. 害虫に対し、強力な接触毒・食毒の両作用があります。
2. アブラムシ類、カイガラムシ類およびチョウ目害虫など広範囲の害虫に優れた効果を示します。
3. 合成ピレスロイド剤、有機りん剤やジアミド剤抵抗性害虫にも高い効果があります。
4. 果樹・野菜・花など幅広い作物に使用できます。

【適用害虫と使用方法】

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (10a当り)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アラニカルブ を含む農薬の 総使用回数
かんきつ	アブラムシ類 ミカンハモグリガ カイガラムシ類 ケムシ類 アザミウマ類 ケシキスイ類 コアオハナムグリ ゴマダラカミキリ ハマキムシ類	1000	200~700 l	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
	アゲハ類 ヨモギエダシャク カネタタキ ミカンバエ成虫 クワノミハムシ ナメクジ類	40	16~20 l				
りんご	アブラムシ類 シンクイムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ オオタバコガ ハマキムシ類 カイガラムシ類	1000	200~700 l	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
	ケムシ類	1000 ~1500					

作物名	適害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (10a当り)	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アラニカルブ を含む農薬の 総使用回数		
なし	アブラムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類 ケムシ類 カイガラムシ類	1000	200~700 ℓ	収穫3日前 まで	2回以内	散布	2回以内		
	もも			クビアカツヤカミキリ				成虫発生期但し、 収穫14日前まで	
アブラムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類 モモハモグリガ カイガラムシ類 ケムシ類				収穫14日前 まで					
ネクタリン	クビアカツヤカミキリ			成虫発生期但し、 収穫21日前まで					
	アザミウマ類 チャノコカクモンハマキ カイガラムシ類 ケムシ類			収穫45日前 まで					
ぶどう	アザミウマ類 イラガ類 カイガラムシ類 カキノヘタムシガ ハスモンヨトウ カキノヒメヨコバイ ケムシ類 ハマキムシ類			1000	200~700 ℓ		収穫21日前 まで	1回	1回
かき	アブラムシ類 ケムシ類			クビアカツヤカミキリ	収穫7日前 まで		3回以内	3回以内	3回以内
	クビアカツヤカミキリ				成虫発生期但し、 収穫7日前まで				
小粒核果類 (うめを除く)	アブラムシ類 ケムシ類 ノコメトガリキリガ			クビアカツヤカミキリ	収穫7日前 まで		3回以内	3回以内	3回以内
うめ	クビアカツヤカミキリ				成虫発生期但し、 収穫7日前まで				
びわ	アブラムシ類 ビワキジラミ	クビアカツヤカミキリ	収穫7日前 まで	5回以内	5回以内	5回以内			
ばれいしょ	ワタアブラムシ イモコガ ナカジロシタバ ハスモンヨトウ		収穫前日 まで						
かんしょ	アブラムシ類 ウリノメイガ	100~300 ℓ	100~300 ℓ	収穫7日前 まで	4回以内	4回以内			
メロン	アオムシ ヨトウムシ タマナギンウワバ アブラムシ類			収穫14日前 まで	3回以内	3回以内			
キャベツ	ヨトウムシ テンサイトビハムシ	1000 ~1500	200~400 ℓ	収穫14日前 まで	3回以内	3回以内			
てんさい 茶	チャノコカクモンハマキ	750		摘採14日前まで					

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (10a当り)	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アラニカルブ を含む農薬の 総使用回数
きく	アブラムシ類 ハスモンヨトウ オオタバコガ	1000	100～300ℓ	発生初期	5回以内	散布	5回以内
	ケムシ類 クビアカツヤカミキリ		200～700ℓ	成虫発生期			

【上手な使い方】

1. 所定量の水にうすめ、十分かき混ぜてから散布してください。

【使用上の注意】

1. 本剤を使用した場合には、メソミルを含む剤は使用しないでください。
2. 使用量に合わせて薬液を調製し、使いきってください。
3. 水溶性内袋入り製剤を使用する場合は、次の事項に注意してください。
 - ①内袋はぬれた手で触れないでください。
 - ②外袋の開封後は一度に使いきってください。やむを得ず保管する場合でもできるだけ速やかに使いきってください。
 - ③薬剤調製の際は容器内の水に内袋を開封せずそのまま投入し、よく攪拌してください。
4. 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布してください。
5. 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ってください。
 - ①散布は散布機種 of 散布基準に従って実施してください。
 - ②散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
6. 混用に問題のある薬剤があるので、別途提供されている技術情報も参考にして使用してください。
7. りんごに使用する場合、落果のおそれがあるので開花後1ヶ月間は散布をさけてください。
8. ぶどうの無袋栽培で使用する場合、果房に汚れが生じるので、果実肥大中期以降の散布はさけてください。
9. 茶のチャノコカクモンハマキの防除に使用する場合、巻葉後の散布は効果が劣る場合があるので、発蛾最盛期に散布してください。
10. ミカンキロアザミウマの防除に使用する場合、生息密度が高まると効果が劣るので、初発生を見たら直ちに散布してください。なお、ミカンキロアザミウマは繁殖が速いので、散布はかけ残しがないようていねいに行ってください。
11. クビアカツヤカミキリの防除に使用する場合、成虫に直接かかるように散布してください。
12. ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。

- ③関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
13. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
 14. 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ、調節してください。
 15. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けてください。
 16. 適用作物群に属する作物又は新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けてください。
 17. 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。
使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
 18. 本剤による中毒の治療法としては硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されています。
 19. 眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
 20. 散布液調製時及び散布の際は保護眼鏡、農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをしてください。
 21. 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
 22. 水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
 23. 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
 24. 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

【貯蔵上の注意】

直射日光をさげ、食品と区別して、鍵のかかるなるべく低温で乾燥し子供の手の届かない場所に密封して保管してください。盗難・紛失の際は、警察に届けてください。